

安曇川地域 まちづくり計画

2022-2026



2023年5月改訂
安曇川地域住民自治協議会

目次

第1章 地域の状況・・・・・・・・・・3

- 1.地勢
- 2.人口
- 3.課題
- 4.資源

第2章 まちづくり計画策定の経緯・・8

- 1.検討メンバー
- 2.検討スケジュールと主な議題

第3章 まちづくり計画の概要・・・・・・・・9

- 1.計画の概要
- 2.基本理念・基本方針・活動方針
- 3.事業内容

第4章 まちづくり計画の推進・・・・13

- 1.体制
- 2.評価と見直し
- 3.事業スケジュール

【参考資料】

- ・住民アンケート調査結果の概要・・・・15

はじめに

高島市では、人口減少などによる集落自治機能の低下が懸念される中、持続可能な地域づくりを進めるため、これからの推進の方向性を「高島市地域コミュニティ推進指針」としてまとめました。この指針は、人口減少に伴う集落機能を考える中で、既存の区や自治会は存続しながら、もう少し広いエリアで地域の自治を支える基盤を作り、今後、個々の区や自治会では難しくなってくる事柄を、地域全体・総ぐるみで、支えることを目指すものです。

この指針を踏まえ、令和2年10月に安曇川地域住民自治協議会設立準備会が発足し、地域における課題や住民ニーズを把握・共有しながら、地域ビジョンや取り組むべき課題等を話し合ってきました。

今回、住民自治協議会の設立に伴い、令和4年度（2022年度）から令和8年度（2026年度）までの向こう5年間を見据えた地域のめざす姿をまとめた「安曇川地域まちづくり計画」を策定しました。この計画を推進し、まちづくりの目標として掲げた「災害に強い地域づくり」、「地域の未来を担うひとづくり」および「地域で支え合う仕組みづくり」の実現に向け取り組んでいきますので、関係団体および地域住民の皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。

当協議会は、地域にお住まいの皆さんが「このまちに住んで良かった。」と実感できる、楽しく、安心して住める、生きがいのあるまちづくりを目指します。そのためには、地域に住むあらゆる人が交流の輪を広げることが重要であると考えています。人口の減少が避けられない中、人と人とのふれあいや繋がりを大切にした「人交密度」を増大させることを基本に地域コミュニティ活動を推進してまいります。

第1章 地域の状況

1.地勢

安曇川地域は高島市の中東部に位置し、東西に細長い地域で、湖西地域きつての大河である安曇川の三角州の上に立地しています。

地形的には、東部は琵琶湖に面し、西部の丘陵部および山間部と安曇川下流の平坦部に大別され、中央部から東部にかけての平野部に農地と市街地が形成されています。

交通は中心部を国道161号線とJR湖西線が南北に並行して走っており、大阪や京都等の主要都市への通勤・通学が可能な地域でもあります。

近年、中心部には幹線道路沿いに大型小売店舗が立地し、安曇川駅周辺にはマンションが建設され、若い子育て世帯が増加しています。しかし一方で、中心部以外では高齢者のみの世帯や高齢者の一人住まい、空家なども目立つようになってきています。

また、地場産業の高島扇骨は全国生産量の約90%を占めています。道の駅藤樹の里あどがわは、令和元年の滋賀県の観光入込客数ランキングで4位にランクインしている人気施設です。

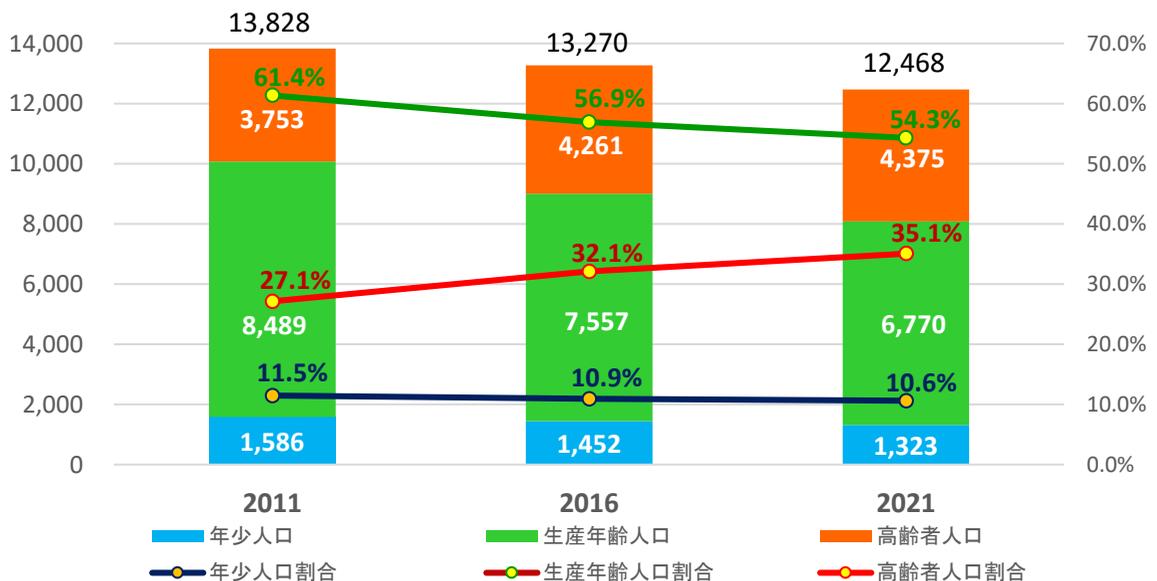
2.人口

R3. 11. 30現在	【安曇川地域】	【高島市】
人口	12,468人	46,954人
世帯数	5,394世帯	20,602世帯

※住民基本台帳登録人口

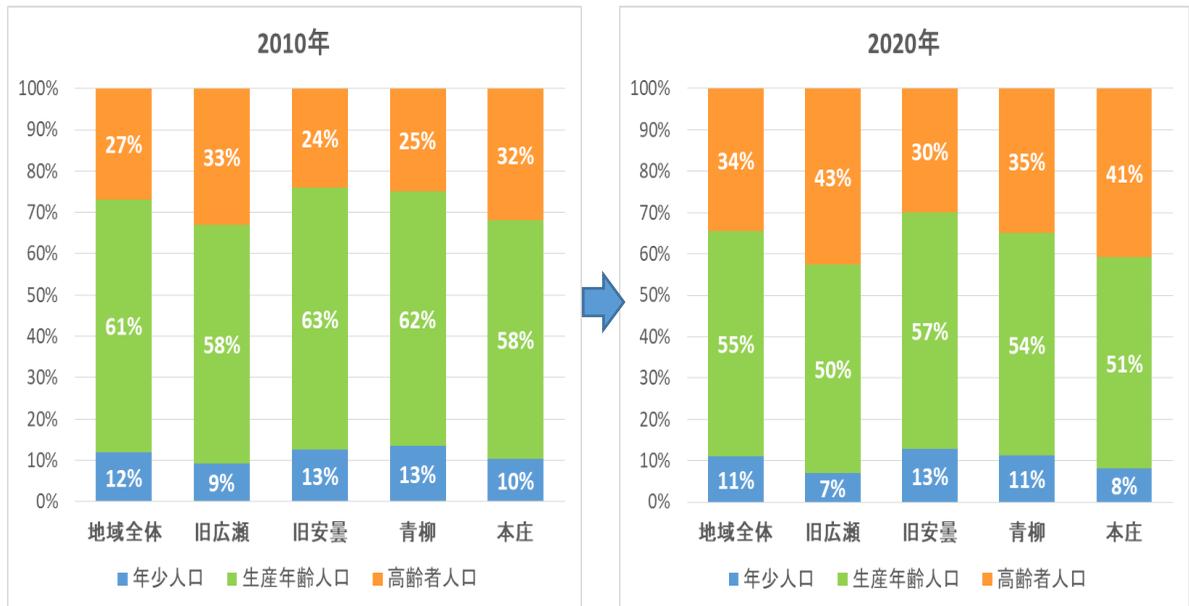
(1) 年齢3区分別人口の推移

- ・2021年と2011年とを比較すると人口が9.8%も減少している。
- ・人口減少が続いている。(生産年齢人口、年少人口が減少)
- ・人口の3分の1以上が65歳以上の高齢者である。



(2) 旧小学校区別の人口構成

・旧広瀬学区と本庄学区は高齢化が特に進んでいる。



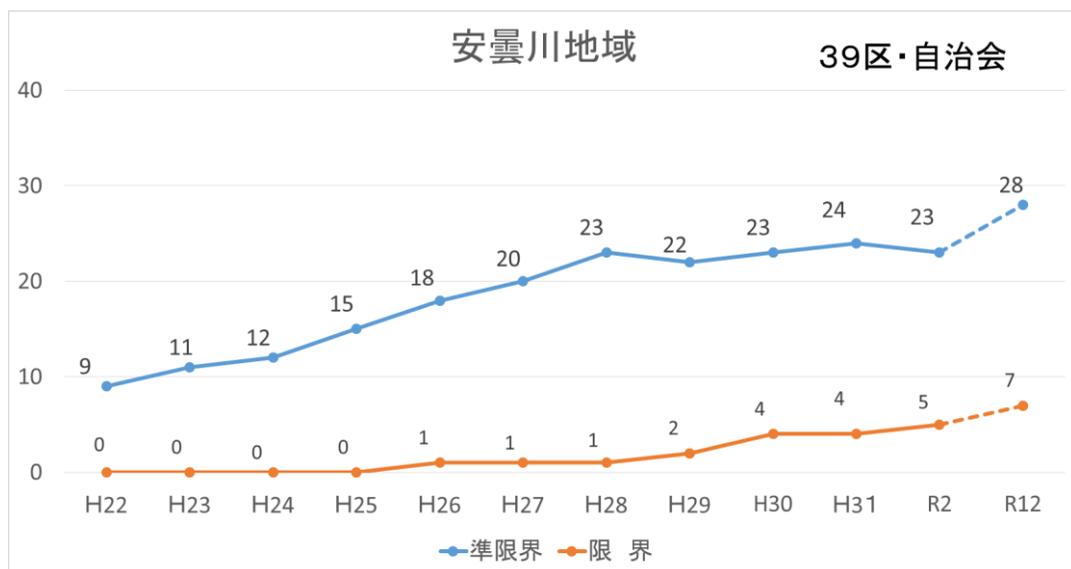
(3) 限界集落・準限界集落

・地域内39区自治会のうち5区自治会が限界集落、23区自治会が準限界集落である。

・今後も、限界集落・準限界集落は増える見込みである。

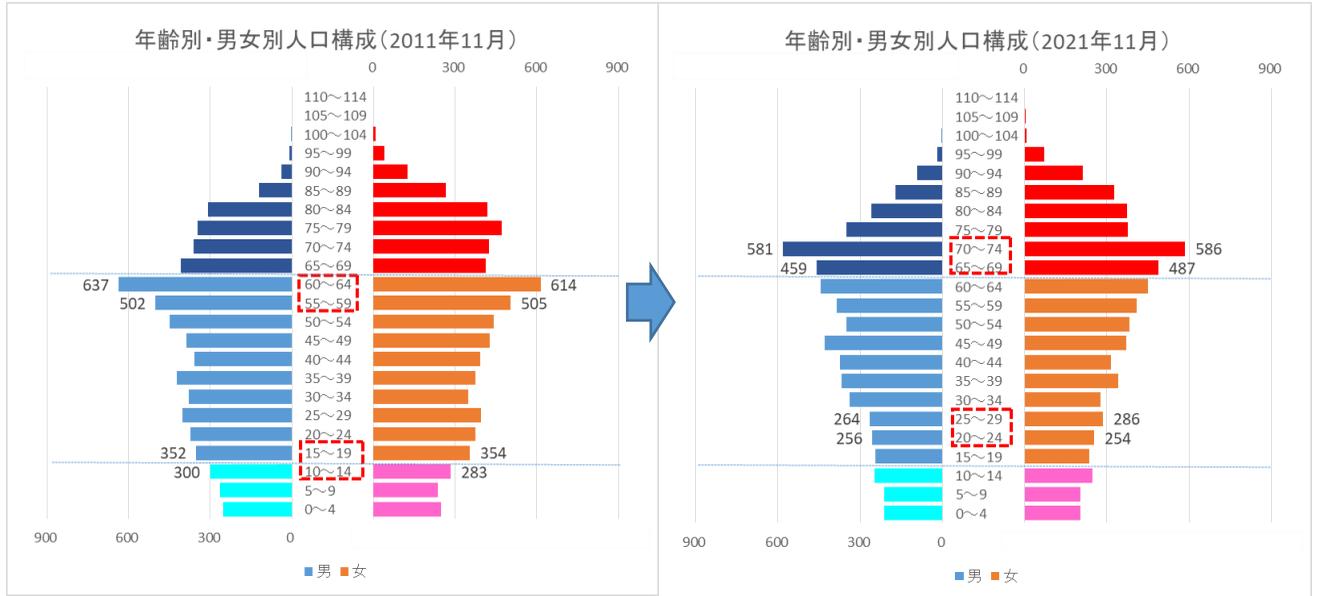
※限界集落：人口の50%以上が65歳以上の高齢者

※準限界集落：人口の50%以上が55歳以上の高齢者



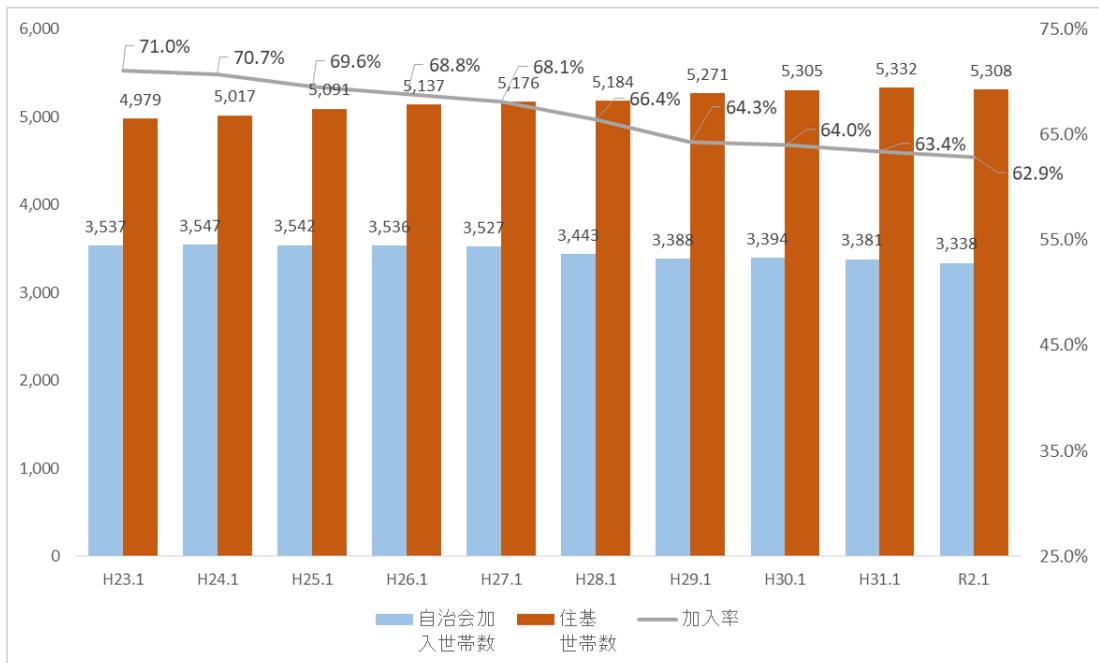
(4) 年齢階層別人口の推移 (2011.11→2021.11)

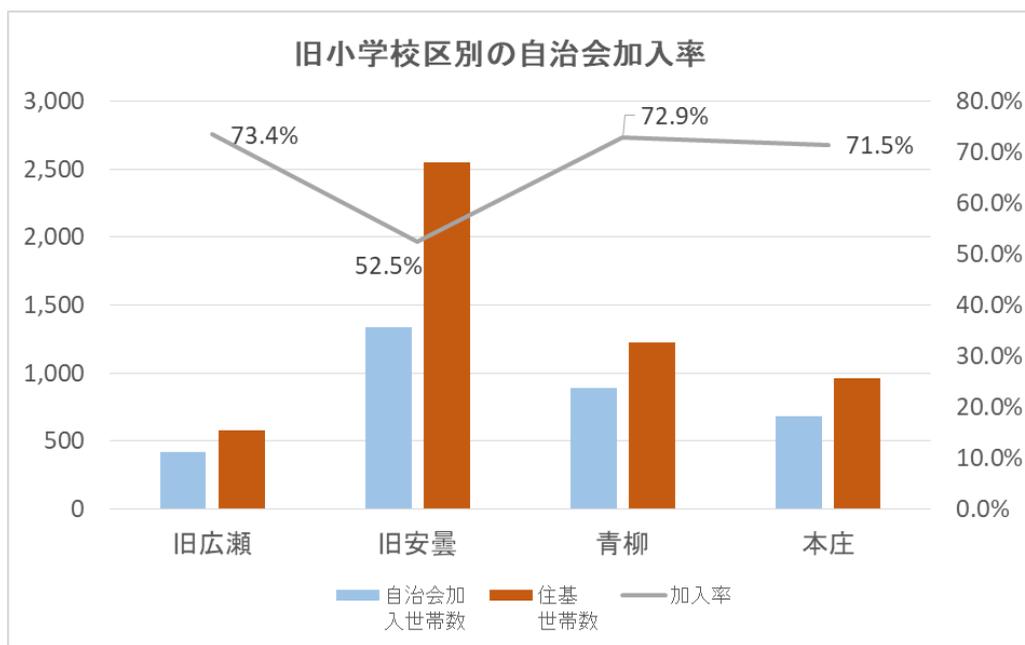
- ・人口の多い年齢階層が65歳以上になった。今後この階層が後期高齢者になった時の地域を支える体制づくりが課題である。
- ・20歳代の人口の社会減少が顕著に見受けられる。



(5) 自治会加入率

- ・世帯数に大きな変化はないが、自治会加入率は減少し続けている。
- ・旧安曇学区の加入率が特に低い。





3.地域資源

農水産業	やな漁、とんちゃん、近江牛、鮎、湖魚、万木かぶら、アドベリー
観 光	道の駅藤樹の里あどがわ、近江白浜、中江藤樹記念館、良知館、びわ湖こどもの国
歴史・文化	藤樹書院、藤樹神社、彦主人王御陵、シコブチ信仰
その他 地域活性化に活用すべき資源	高島扇骨、雲平筆

- ◇人柄の温かさ、優しさ
- ◇小中学生を中心とした中江藤樹先生の教えや生き方に学ぶ地域学習
- ◇集落ごとの結びつきが残っている。隣近所の助け合いがある。



高島扇骨



道の駅藤樹の里あどがわ

4.地域の課題

福祉・健康	<ul style="list-style-type: none">・活動の担い手が不足している。・個人情報の壁があり、地域での情報共有が難しいケースがある。
防災	<ul style="list-style-type: none">・防災訓練の参加者が限られている。参加者が少ない。・防災に関する取り組みができていない地区がある。・高齢化が進んでおり、これまでの自主防災・初期消火体制で対応できるか不安がある。
自治会活動	<ul style="list-style-type: none">・役員のなり手が不足している。リーダーシップを取る人がいない・若い人が自治会活動に協力的ではない。自治会に加入しない人が増えてきている。今後、高齢化が進んでいくにつれてますます自治会活動が停滞していく恐れがある。・自治会が設置されていない地区がある。そのため防災や見守りに不安がある。
子育て・教育	<ul style="list-style-type: none">・集落の子どもが大変少なくなつて明るい子どもの声が聞けない。・少子化で人数が揃わないため活動できないスポーツがある。・SNS、インターネット等、社会の変化に対応できる人材育成が必要。



安曇川地域設立準備会 協議風景

第2章 まちづくり計画策定の経緯

1. 検討メンバー

	氏名	団体名
会長	梅村 頼子	地域学校協働活動推進員
副会長	多胡 伊久男	社会教育委員
委員	平井 幸雄	安曇川地域区長連絡会・南市区自治会 ※R2. 10. 25~R3. 4. 21
	白井 豊	安曇川地域区長連絡会・青柳区 ※R3. 4. 22~
	杢本 正昭	安曇川地域区長連絡会・中野自治会 ※R2. 10. 25~R3. 4. 21
	越智 浩美	安曇川地域区長連絡会・竹の里区 ※R3. 4. 22~
	拝藤 正彦	安曇川地域区長連絡会・北船木区
	八木 武	元地域自治組織あり方検討委員会委員
	平井 登志枝	安曇川民生委員児童委員協議会
	石黒 徳市	安曇川住民福祉ネットワーク
	山本 房栄	安曇川赤十字奉仕団
	萬木 艶子	高島市エコライフ推進協議会安曇川支部
	金丸 博	高島市消防団
	梅村 三知子	安曇川青少年育成学区民会議・健康推進員協議会安曇川支部
	内田 勝利	安曇川青少年育成学区民会議・青柳学区青少年育成コミュニティ会議
	木津 陽介	あどがわ夏まつり実行委員会
淵田 泰士	公募委員	

2. 検討スケジュールと主な議題

	年月日	主な議題
第1回	令和2年10月25日	委嘱状交付、準備会設置、自己紹介、役員選出
第2回	令和2年12月7日	地域状況についての意見交換
第3回	令和3年2月12日	地域団体の活動紹介
第4回	令和3年3月12日	住民アンケート調査結果、柱の検討
第5回	令和3年5月7日	柱の決定、事業案の検討
第6回	令和3年6月11日	部会ごとに事業案の検討
第7回	令和3年8月20日	事業案の検討およびブラッシュアップ
第8回	令和3年10月22日	規約案およびまちづくり計画案等の検討
第9回	令和3年11月19日	規約案およびまちづくり計画案等の確認

第3章 まちづくり計画の概要

1.計画の概要

範囲：この計画は、中学校区を対象エリアとし、協議会を構成する区自治会、各団体等が主体的に取り組むことができる範囲とします。

期間：2022（令和4）年度～2026（令和8）年度

2.基本理念・基本方針・活動方針

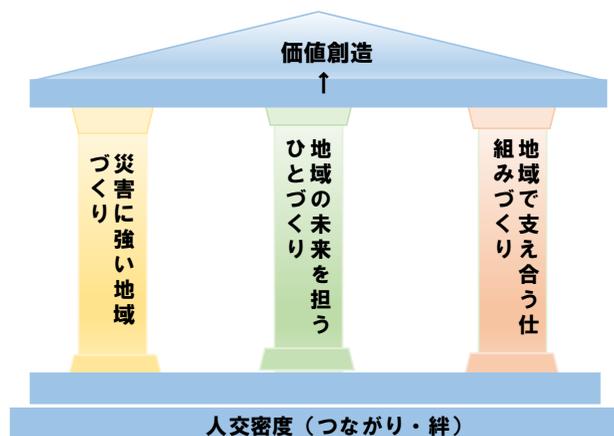
●基本理念
絆をつなぎ交流と連携で支え合うまちづくり

●基本方針

①災害に強い地域づくり

②地域の未来を担うひとづくり

③地域で支え合う仕組みづくり



●活動方針

区自治会や各種団体等がネットワークを築き、自らが企画し実践するまちづくり活動を展開し、人と人との繋がりを増やして住民自治を確立する。

3.事業内容

基本方針① 災害に強い地域づくり

少子高齢化や人口減少さらには若者の区自治会離れなど集落を取り巻く環境が大きく変化しています。一方で自然災害リスクが増大しており、大規模災害による被害を少なくするためには、自助・共助を軸とした地域防災力を一層高める必要があります。

そこで、区・自治会、自主防災組織および地域団体など、様々な地域関係者が、地域の防災力向上に向け、防災に関する必要な事項を検討し情報の共有化を図ることで、災害発生時に地域住民同士が連携しながら、主体として活動できる関係を構築する。

また、共助の仕組みが整っていない自治会が無い地域の住民や自治会に加入していない住民が増加していますが、こうした方々にも参加していただけるよう内容を工夫したイベントを開催し、防災意識の高揚を図るとともに、地域コミュニティの一員であることを認識していただく機会を設けることも必要であると考えています。

事業

事業名	概要	成果指標 (年ごと)	協力者
避難所打合せ 会議	広域避難所ごとに、関係区・自治会の役員による避難所開設および運営に関する話し合いを実施する。また、必要に応じて出前講座や防災訓練等を行うなど、緊急時の役割分担や連携について考える。	実施回数 1～2回 参加人数 30人	区・自治会 防災リーダー
家具転倒防止 事業	地震に伴う家具転倒による被害を防止するため、対策を希望する世帯に対して家具転倒防止器具の取り付けを行う。	実施戸数 40戸	シルバー人材センター 建築業等の経験者 民生委員児童委員

3.事業内容

基本方針② 地域の未来を担うひとづくり

若者の流出や高齢化が急速に進み、最近では区・自治会に加入しない、加入していても参加しない方が増加しているなかで、まちづくり活動を担う人材が不足し、地域コミュニティが衰退化しつつあります。

また、高校生アンケートでは、高島市に住みたくないとの回答が半数近くもあり、若者の流出を少しでも減少させる魅力ある地域づくりの活動が必要です。

地域が一体となって、若者に将来必要となるスキルの基礎を学ぶ場や、働く体験の場を提供しながら、地域で稼ぐ力を持った人材を育成します。また、地域で活動する人との交流や様々な体験を通じて、人と人との結びつきやまちづくり活動への意識を醸成し、将来の地域活動の担い手となる人づくりを目指します。

事業

事業名	概要	成果指標 (年ごと)	協力者
チャレンジ人材育成事業	市内の高校に通学する高校生グループ等が、商品の企画・仕入・準備・販売などショップのオープンから決算までを自分たちで取り組むことにより、商品販売の経験を積むとともに、将来的な起業につなげる。	売上高 30千円/日	商工会安曇川支部 安曇川高等学校 夏まつり実行委員会 アドベリー生産協議会
IT人材育成事業	YouTubeやInstagramなどのITプラットフォームを利用して情報発信できる人材を育成する。 まずは、情報リテラシー教育と動画の企画・撮影・編集の基礎講座を行う。	受講者数 10人	社会教育委員 商工会安曇川支部 安曇川高等学校
体験交流活動事業	子どもや、若者の考えを大切に、ボランティア活動や体験活動を通して、自ら考え行動する達成感や、交流・ふれあいを深める。 (活動例) ①「まちをきれいにしよう」…ゴミ拾い・花を植えよう ②「教え合おう」…子ども達の寺子屋 ③「ものづくり」…訪問のプレゼント ④「ウォーキング」…異世代の交流	実施回数 2回 参加人数 30人/回	安曇川高等学校 安曇川中学校 子ども会

3.事業内容

基本方針③ 地域で支え合う仕組みづくり

少子高齢化が進む中、価値観やライフスタイルの変化・多様化、核家族化や地域のつながりの希薄化など、家族を含む他者との関わり方が変わり、日常的な不安、悩みの相談、子育て相談など様々な不安を抱えている家庭が増えています。

また、自治会においても、区長等の役員のなり手や事業・行事等の担い手不足により集落での事業や交流が少なくなっています。加えて、自治会未加入者が増加しているなど、地域コミュニティの基盤が弱くなっています。

このため、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、人と人との関係性を増やすことが大事であり、地域住民が交流しコミュニケーションを深める機会を提供するとともに、自治会活動における問題解決や運営をサポートする仕組みづくりを検討するなど地域で支え合う仕組みづくりを推進します。

事業

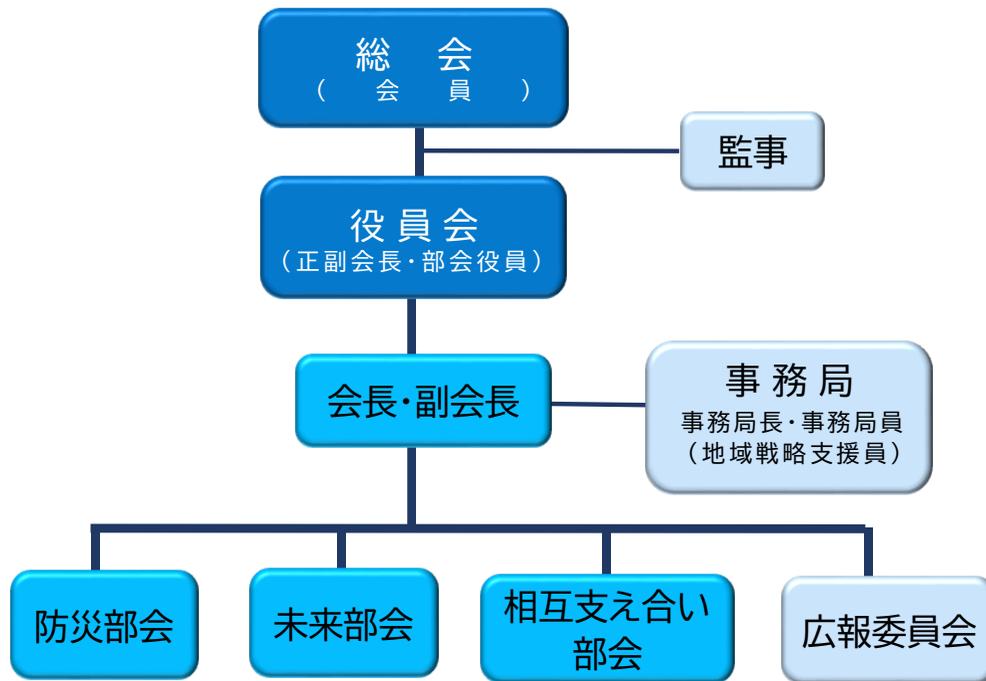
事業名	概要	成果指標 (年ごと)	実施体制
コミュニティ 広場	地域住民が集まり、子どもからお年寄りまで多世代が交流し、住民同士が出会いコミュニケーションを深める機会をつくる。内容は地域に応じて、郷土料理教室、特技や知識を持っている方から学ぶミニ講座、またはゲームやレクリエーションなど、様々なイベントを通して豊かな人間関係づくりを目指す。また、地域の関係団体と協働で交流イベントを開催する。	実施回数 2回 参加人数 30人/回	住民福祉ネットワーク 社会福祉協議会 赤十字奉仕団 民生委員児童委員 福祉推進委員 区・自治会健康推進員
自治会サポ ート	(1)相談窓口 区長・自治会長等の相談先として相談窓口を開設し、区自治会運営や地域課題の解決に関する助言等を行う。	相談件数 10件	区長連絡会 区・自治会 社会福祉協議会
	(2)運営支援 自治会活動に関する情報発信の支援、自治会運営に関する情報共有の仕組みの構築および研修などを実施する。 (自治会web掲示板、自治会情報閲覧コーナー、マニュアル作成、自治会セミナー等)	—	
調査・研究	地域で支え合う仕組みづくりを推進するため、当地域で取り組むべき事業等について調査・検討を行う。 (先進地研修、ワークショップ等)	参加人数 10人	市民交流センター

3.事業内容

その他		広報活動・情報発信	
事業			
事業名	概要	成果指標 (年ごと)	協力者
協議会だより 発行	「協議会だより」を発行し、区・自治会を通じて配布する。 協議会活動および地域の話題や情報等を掲載する。	年4回発行	
ホームページによる 情報発信	協議会の情報を随時発ししていく。また、 地域情報についても発信していく。	—	工房ともない

第4章 まちづくり計画の推進

1.体制



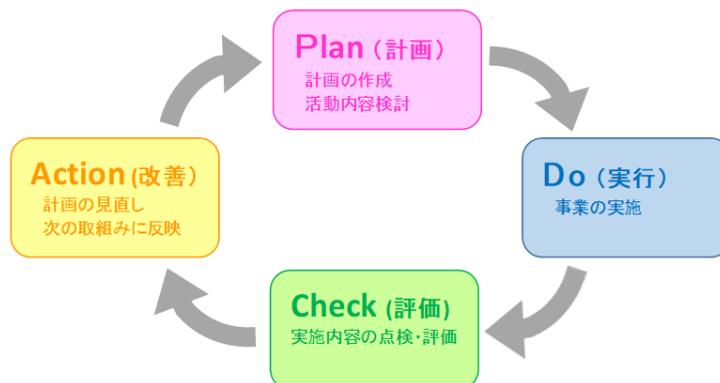
※各部会は会員をもって構成し、必要があると認めるときは関係者の出席を求め意見を聞くことができる。

2.評価と見直し

年度ごとに事業計画および予算措置を行い、本協議会の総会の承認を得た上で事業を実施する。

各取り組みが、目標を達成するものになっているのか、課題解決のためどこまで進んでいるのか、どう変わったのかを把握するため、年度ごとに取り組み(事業ごと)の「進行管理シート」を用いて事業の進行管理を進める。

また、PDCAサイクルを確立することにより、計画の有効性と事業の効率性を検証し、必要に応じて柔軟な事業の見直しやより成果の高い事業に取り組むなど適宜計画の見直しを行う。



【参考資料】

住民アンケートの概要

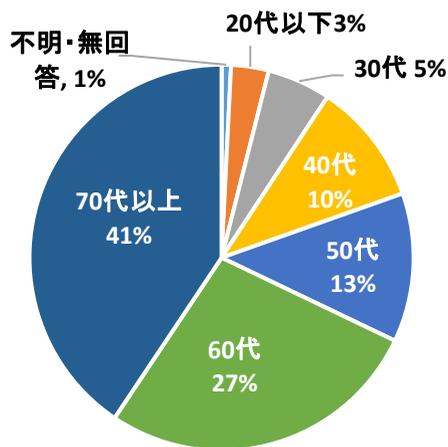
1.安曇川地域住民アンケート

(1) アンケート調査の概要

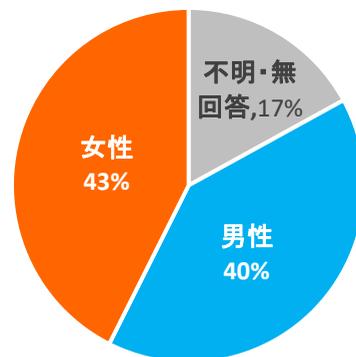
調査時期	令和3年2月20日～令和3年3月4日
調査対象	安曇川地域に居住する19歳以上の住民（抽出） 1,568人
回収率	32.2%（回答505人／1,568人） ※人口の約4%

(2) 回答者の属性

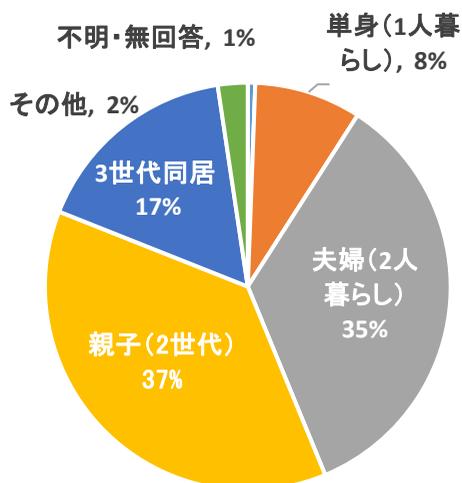
■回答者属性(年代別)



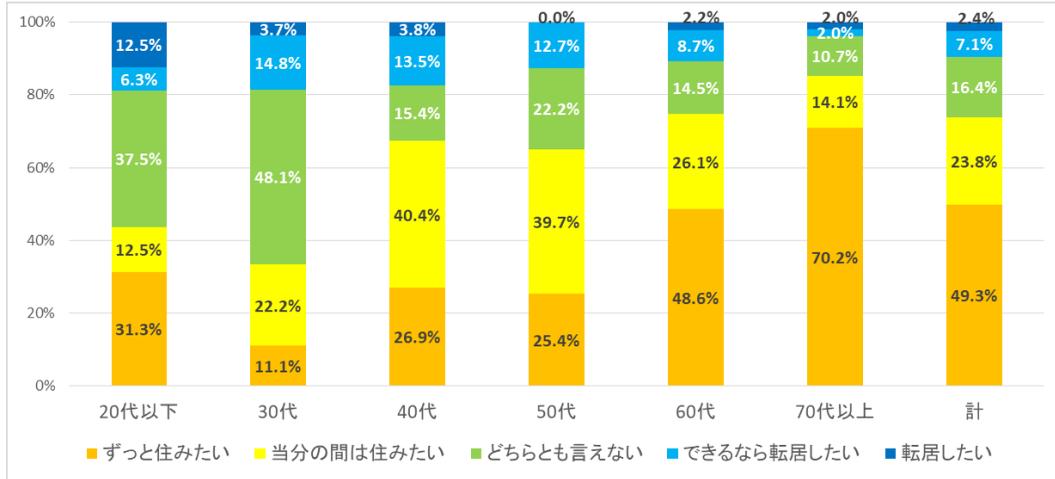
■回答者属性(性別)



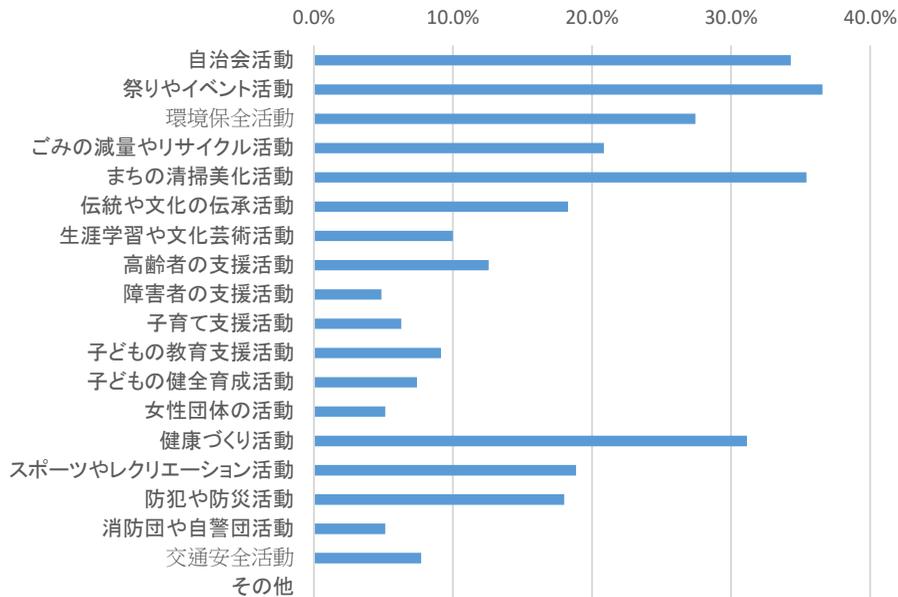
■世帯構成



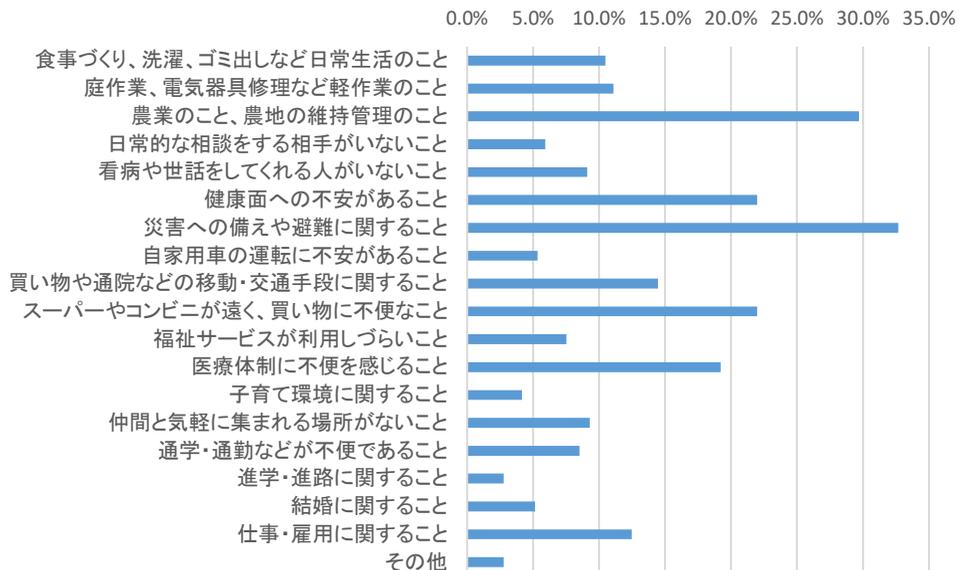
(3) 今後もこの地域に住み続けたいか



(4) 参加したい地域活動



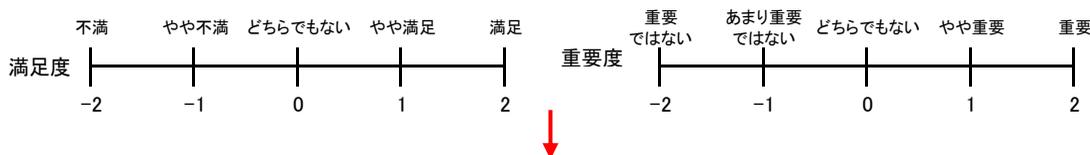
(5) 日常生活で不安に感じている事、困っている事



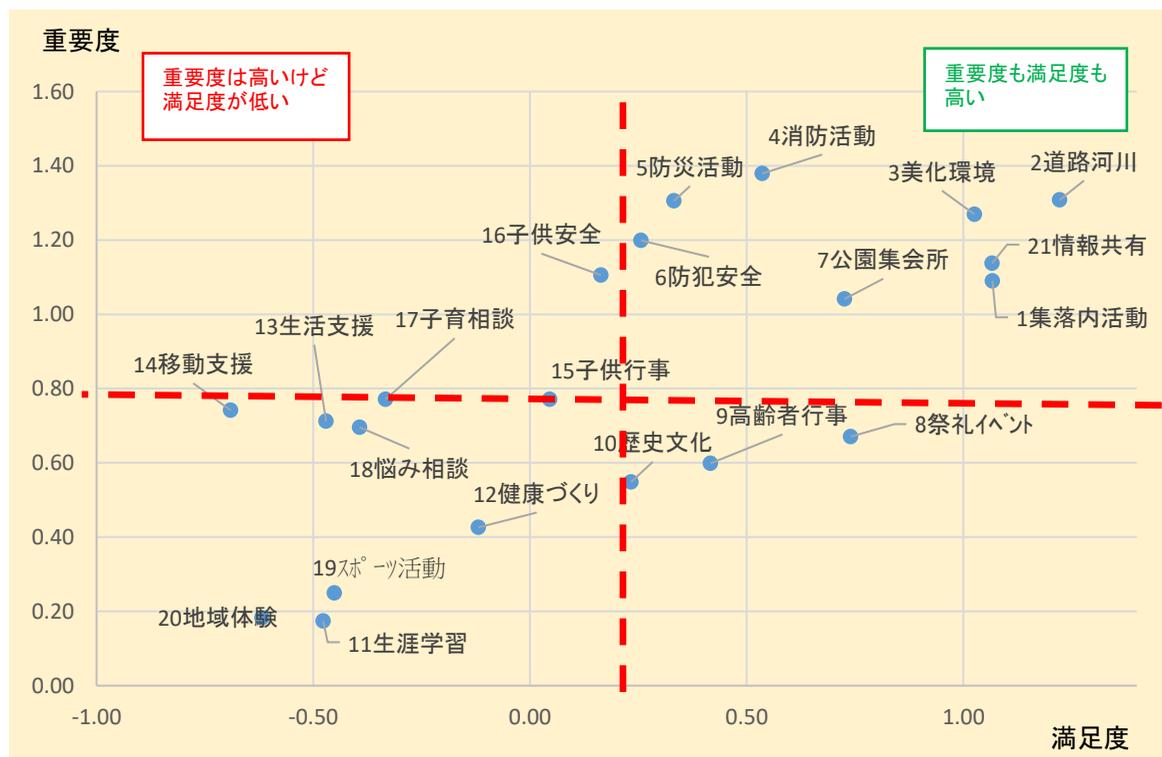
(6) 地域活動の満足度&重要度

■各項目ごとの「満足度」と「重要度」の平均値

活動・事業項目	満足度 (A)	重要度 (B)	(A)-(B)
1 地域・集落内の付き合いについて	1.07	1.09	-0.02
2 草刈り・河川清掃など、道路・河川の維持管理について	1.22	1.31	-0.09
3 植栽・側溝清掃など、地域内の美化・環境保全について	1.03	1.27	-0.24
4 消防火・救命など、消防活動について	0.54	1.38	-0.84
5 避難訓練・連絡体制など、防災活動について	0.33	1.31	-0.97
6 見回りなど、防犯・交通安全活動について	0.26	1.20	-0.94
7 公園・集会所などの維持管理について	0.73	1.04	-0.32
8 祭りなど、祭礼・イベントについて	0.74	0.67	0.07
9 敬老会など、主に高齢者対象の行事について	0.42	0.60	-0.18
10 地域の歴史に関する保全・管理活動および伝統文化の継承活動について	0.23	0.55	-0.31
11 サークル、教室など、生涯学習関連の活動について	-0.48	0.17	-0.65
12 健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動について	-0.12	0.43	-0.55
13 見守り、配食サービスなど、生活支援活動について	-0.47	0.71	-1.18
14 買物・通院など、移動支援活動について	-0.69	0.74	-1.43
15 子ども会など、主に子ども対象の行事について	0.05	0.77	-0.73
16 登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動について	0.16	1.11	-0.94
17 子育てなどの相談ができる場や人、保護者同士が交流できる場について	-0.33	0.77	-1.10
18 日常的な不安や悩みが相談できる場や人について	-0.39	0.70	-1.09
19 サークル、教室など、地域内のスポーツ活動について	-0.45	0.25	-0.70
20 散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動について	-0.62	0.18	-0.80
21 広報紙や回覧板など、地区内での情報共有について	1.07	1.14	-0.07



■各地域活動に対する満足度と重要度の分布



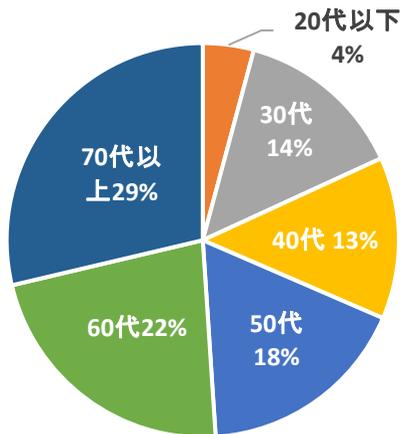
2.自治会未設置地域アンケート

(1) アンケート調査の概要

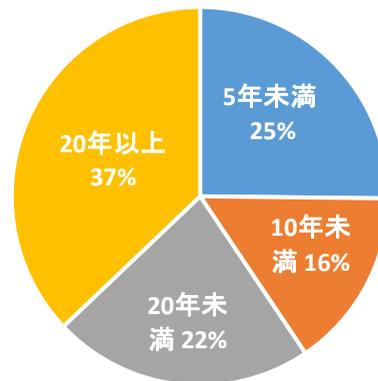
調査時期	令和3年2月20日～令和3年3月4日
調査対象	中央またはびわこガーデンタウンに居住する世帯の代表者369通
回収率	38.8% (回答143通/369通)

(2) 回答者の属性

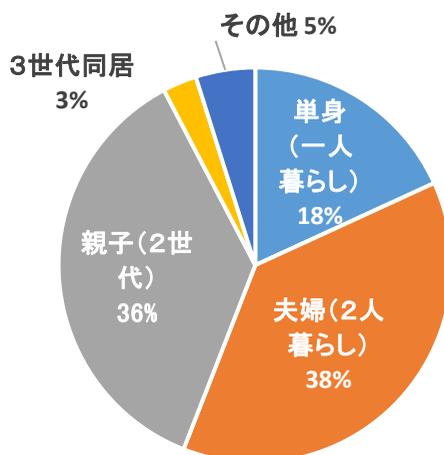
■回答者属性(年代別)



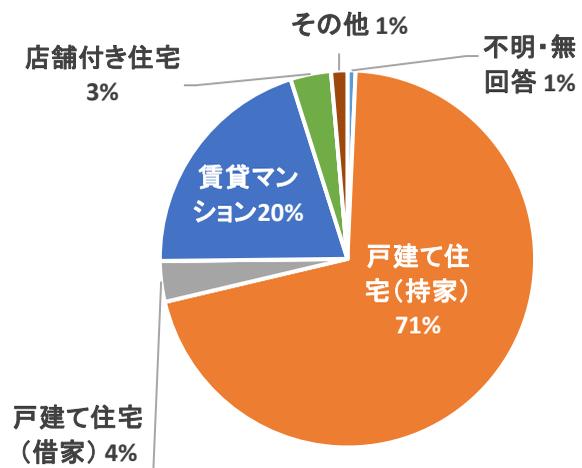
■居住年数



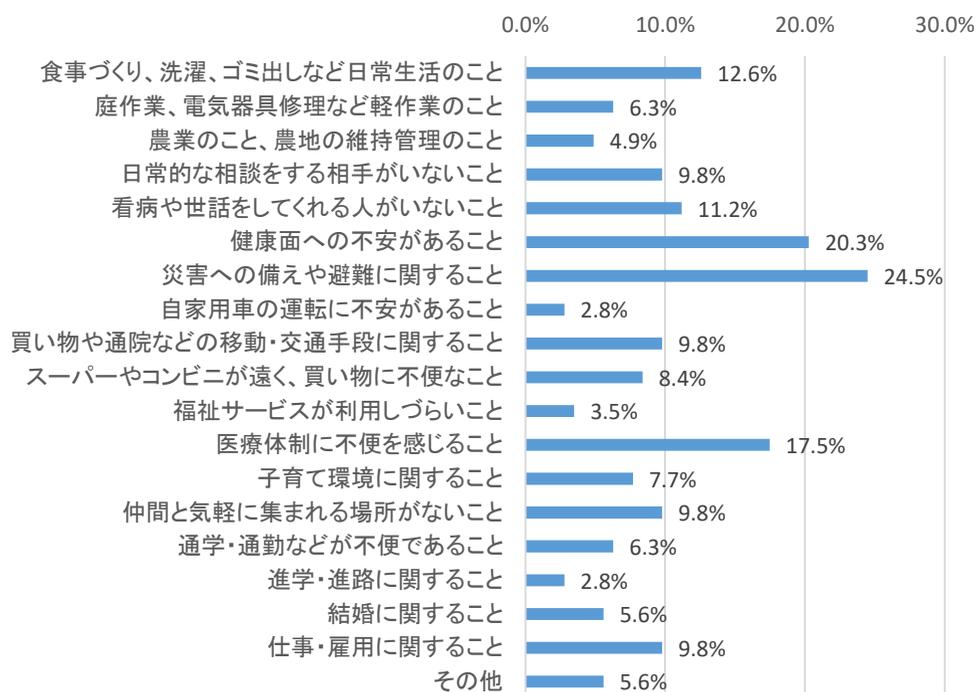
■世帯構成



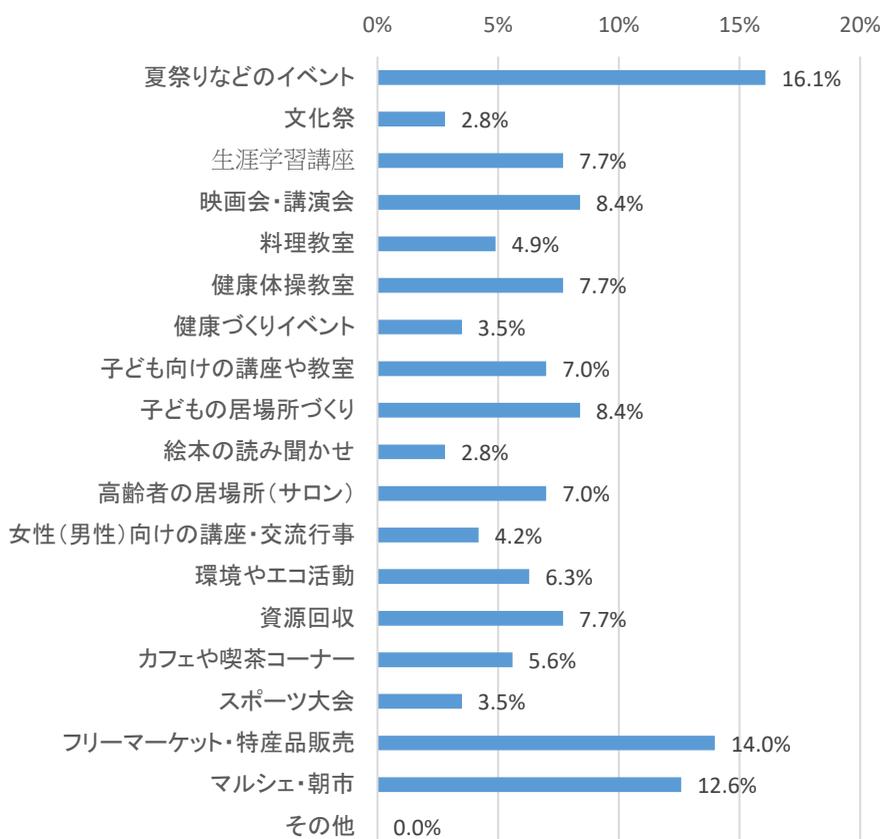
■居住形態



(3) 生活課題等

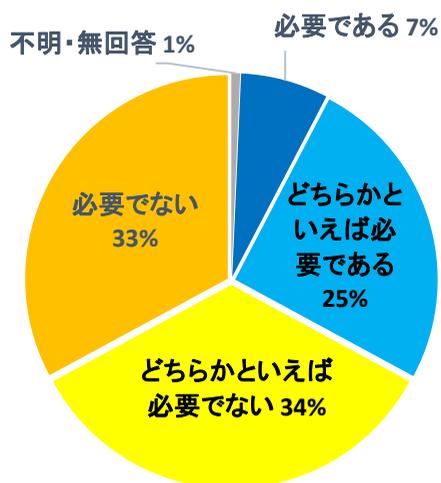


(4) 取り組んでほしい行事・事業

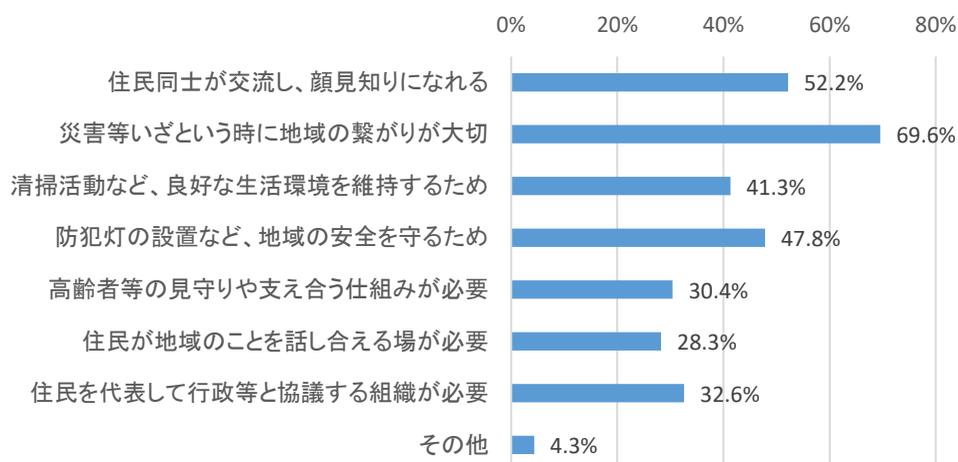


(5) 自治会について

■自治会は必要か



■自治会が必要と考える理由



■自治会が必要でないと考える理由

